

2. 前回「第6回懇話会」でのご指摘について

(本日のご報告内容)

- (1) 人形峠センターの今後の事業展開及び予算計画（案）
の検討状況
- (2) 研究開発に使用したウランの経歴等について



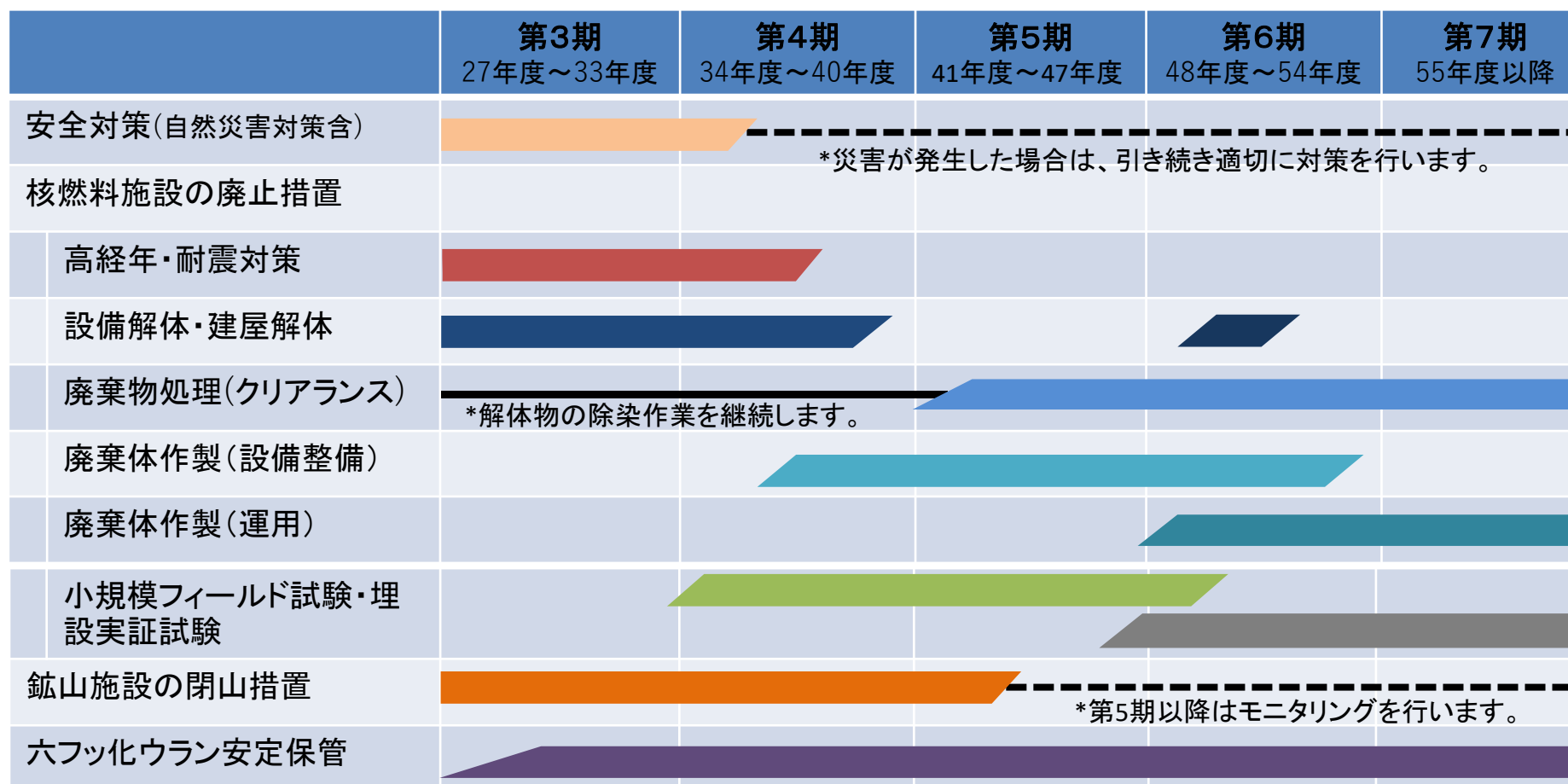
2-(1) 人形峠センターの今後の事業展開及び予算計画（案）の検討状況

- 人形峠センターの長期にわたる事業及び予算の計画については、原子力機構内で検討しています。今後、地元自治体等のご意見も伺い、取りまとめる予定です。
- 取りまとめ結果については、次回懇話会(平成31年3月予定)において、ご説明するとともに、機構の施設中長期計画などにも反映し、公表します。



2-(1) 人形峠センターの事業展開のイメージ

7-4-2



- 安全対策を最優先に行います。
- 人形峠センターの形態や活用方法は、地元自治体や地域の皆さまのご意見も伺いつつ具体化していきます。

2-(1) 人形峠センターの今年度の予算（参考）

平成30年度人形峠センター予算

鉱山跡措置対策に関する予算	予算額
① 鉱山跡措置対策	約5.1億円
② 安全確保対策等	約0.2億円

バックエンド研究開発に関する予算	予算額
① 旧ウラン濃縮関連	約12.6億円
② 製錬転換施設関連	約1.8億円
③ 安全対策・管理経費等	約2.3億円

（合計 約22.0億円）

人形峠センターの課題に対する主な実施内容

- 鉱山施設の閉山措置（約1.0億円）
 - ・ 坑水の発生源対策に係る検討
 - ・ 人形峠周辺の水の流れの調査
 - ・ 保管鉱業廃棄物の調査 等
- 鉱山施設の安全対策（約0.3億円）
 - ・ 坑水処理施設の耐震設計等査
 - ・ 捨石たい積場の崩落・えん堤崩壊に係る解析 等

- 環境研究及びウラン廃棄物工学研究（約0.9億円）
 - ・ 地下水流動に関連する情報整備
 - ・ フィールド調査
 - ・ 除染技術の開発や廃棄物調査
 - ・ 減損ウラン安定化に係る調査 等

その他、施設の維持管理や光熱水費、安全確保等を実施しています。

- 今後の事業展開に必要な予算についても、確実に確保できるよう調整を進めます。

2-(2) 研究開発に使用したウランの経歴等について

7-4-4

- 人形峠センターは、昭和32年から約60年に渡って、ウランを使った研究開発を行ってきました。この間、研究開発に使用したウランは、大きく分類すると以下のとおりです。
- 天然ウラン（人形峠周辺のウラン鉱山より採掘されたもの）
- 天然ウラン（研究開発用に海外から受入れたもの）
- 回収ウラン（研究開発用に機構の東海再処理工場から受入れたもの）

ウラン探鉱・採鉱 1956-1987
(昭和31年-昭和62年)



昭和33年頃の峠
2号坑入り口付近

ウラン濃縮 1979-2001
(昭和54年-平成13年)



ウラン濃縮原型
プラントの遠心
分離機(DOP2)

ウラン製錬・転換 1964-1999
(昭和39年-平成11年)



昭和55年頃の
試験製錬所

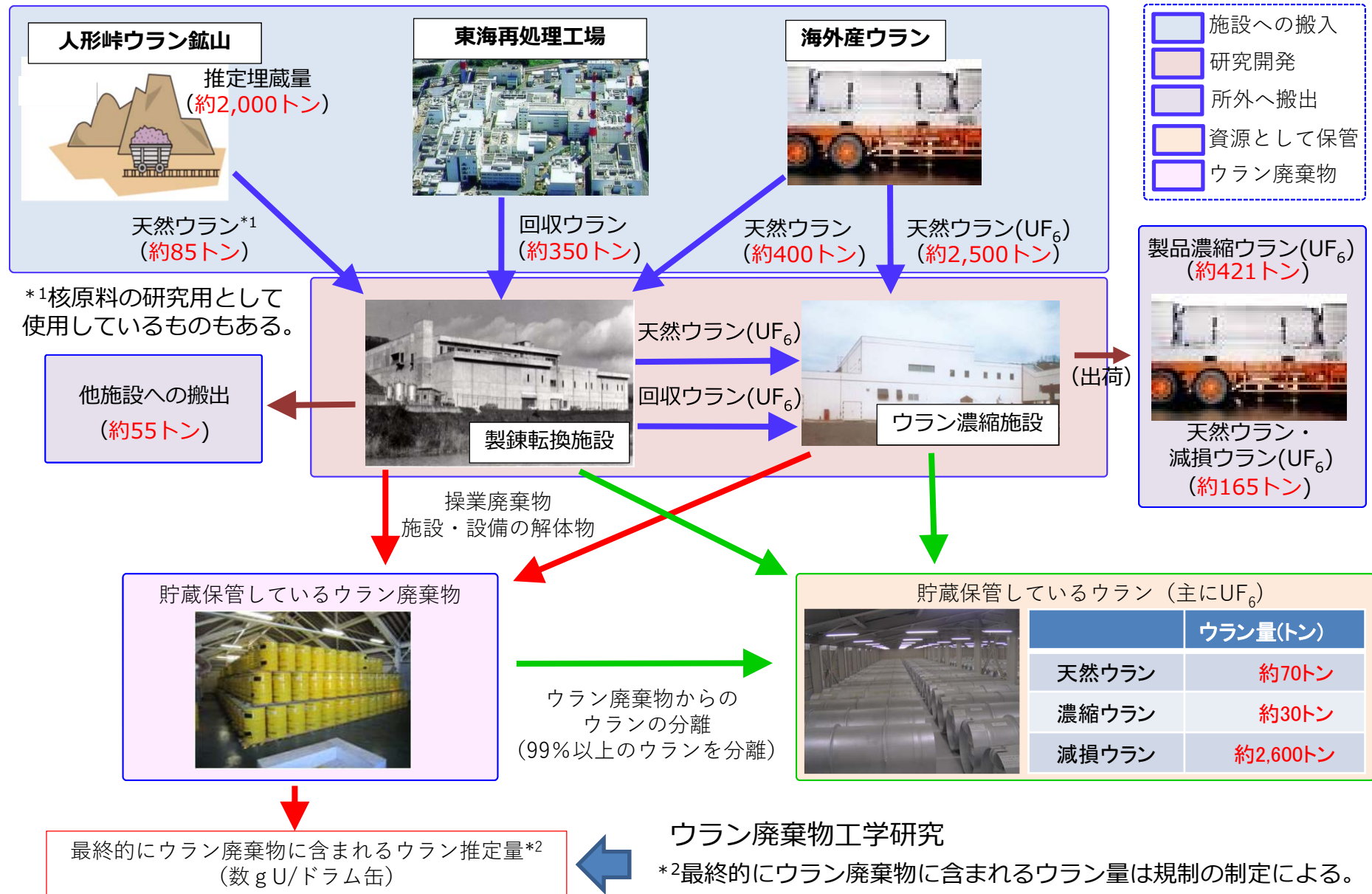
廃止措置 2001-
(平成13年-)



設備を撤去
した製錬転
換施設

人形峠で行ってきた
ウランを使った研究開発

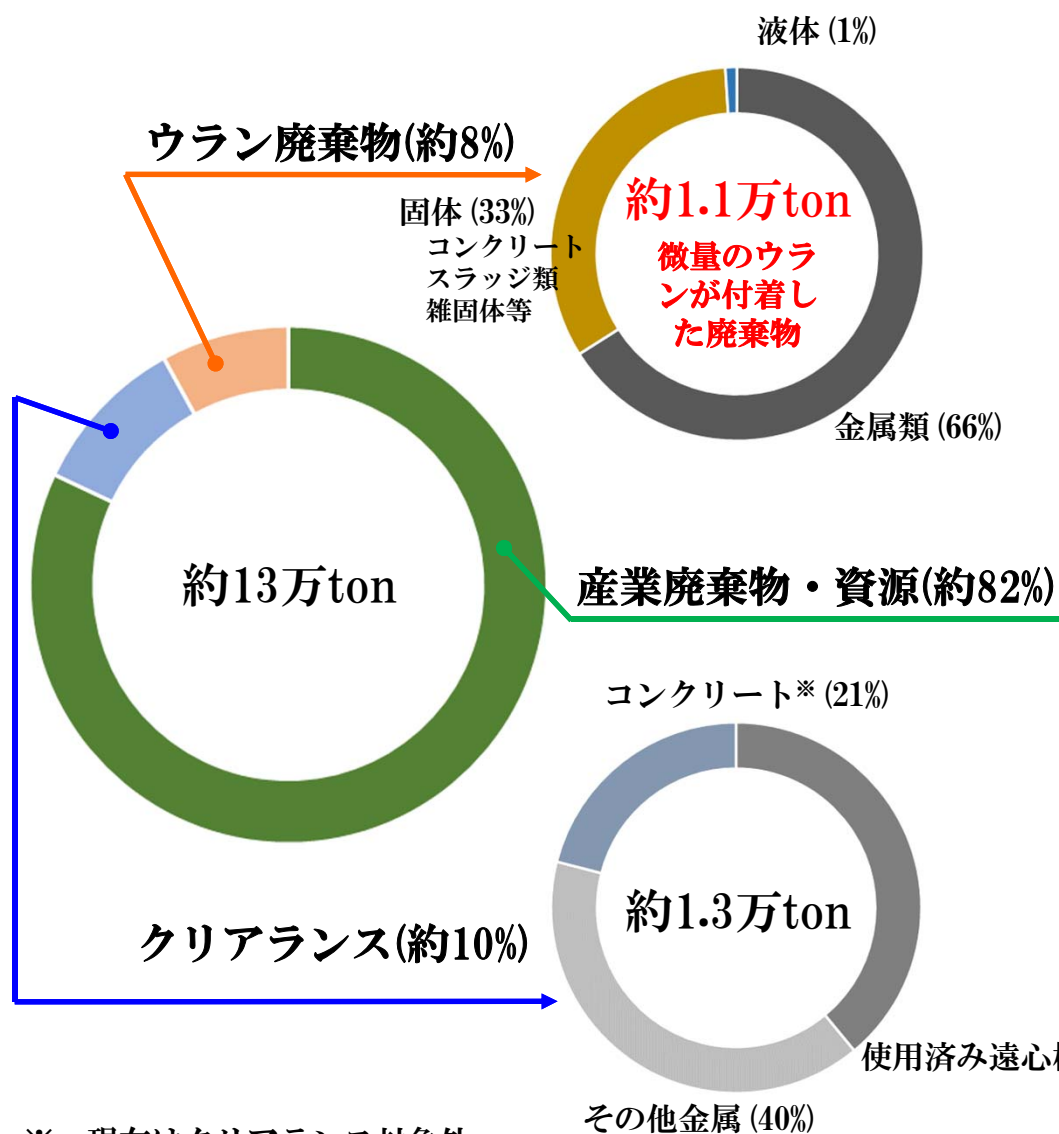
2-(2) 研究開発に使用したウランの経歴等について



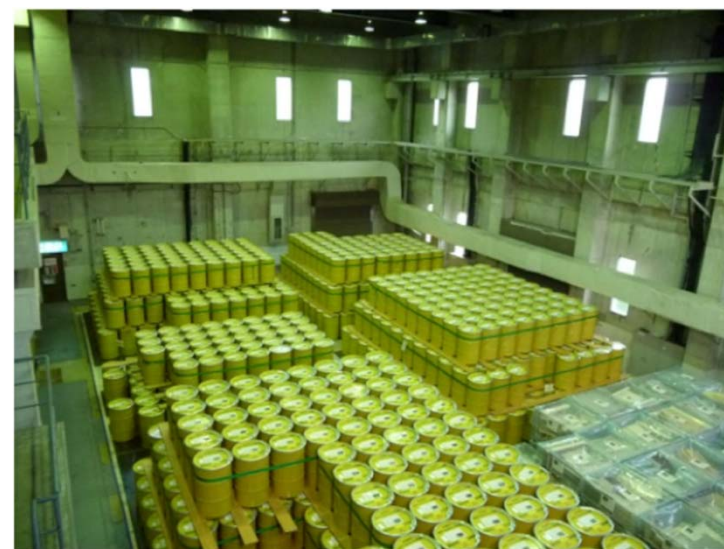
2-(2) 施設の解体から発生する廃棄物

7-4-6

施設を解体することで発生する廃棄物量(推定値)



施設の解体から発生した廃棄物の例



施設の解体から発生した廃棄物の保管状況